

八戸市美術館 11月3日(水・祝)開館

開館記念「ギフト、ギフト、」参加アーティスト決定



撮影 | 阿野太一

開館日は 2021年11月3日(水・祝)

八戸市美術館は、開館日を 2021年11月3日(水・祝)とすることに決定いたしました。

開館に先立ち、8・9月にプレ事業を実施します。プレ事業第一弾は8月8日(日)。この日からカウントアップをはじめ、88日目の11月3日(水・祝)に開館を迎えることとなります。プレ事業の詳細は7月発表予定です。

また、引き続き、9月末完成を目指して美術館前広場の工事を進めてまいります。

八戸市美術館 開館概要

開館日 2021年11月3日(水・祝)

開館時間 10:00-19:00

休館日 毎週火曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始(12月31日-1月1日)

お問い合わせ先

八戸市美術館 031-0031 青森県八戸市大字番町10-4 TEL | 0178-45-8338(代表番号) FAX | 0178-24-4531
E-mail | art@city.hachinohe.aomori.jp 八戸市美術館公式 HP | <https://hachinohe-art-museum.jp>
担当者(広報) | 大澤、平井



八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」 11組のアーティスト・コレクションが参加

開館後最初の企画となる、八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」では、八戸市を代表する祭りである「八戸三社大祭」を出発点に、アートを通して“ギフト”的精神を見つめる展覧会とプロジェクトを開催します。

参加アーティスト・コレクションは、11組。インスタレーション、浮世絵、写真、映像、陶芸、音楽、建築など多様なジャンルのラインナップです。

“ギフト”は、これまでの社会で求められてきた価値とは異なる豊かさをこれから社会に生み出すヒントと捉えています。過去から未来、人から人へと巡る、この地域ならではの“ギフト”を「100年後の八戸を創造する」ための種として見出し、あらゆる人々と共にその種を蒔き、育んでいくことで、新たな美術館は第一歩を踏み出します。

・企画名

八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」

・会期

2021年11月3日(水・祝)～2022年2月20日(日)

・アーティスト・コレクション(五十音順)

浅田政志(あさだ・まさし)、江頭誠(えがしら・まこと)、大澤未来(おおさわ・みらい)、大西幹夫(おにし・みきお)、KOSUGE 1-16(こすげいちのじゅうろく)、田附勝(たつき・まさる)、田村友一郎(たむら・ゆういちろう)、西澤徹夫・浅子佳英・森純平(にしづわてつお・あさこ・よしひで・もり・じゅんぺい)、八戸クリニック街かどミュージアム浮世絵コレクション(はちのへくりにっく・まちかどみゅーじあむ・うきよえこれくしょん)、榎本佳子(ますもと・けいこ)、向井山朋子(むかいやま・ともこ)

・ディレクター

吉川由美(よしかわ・ゆみ)

(アートプロデューサー、八戸市新美術館運営検討委員会委員、八戸市新美術館建設工事設計者選定プロポーザル審査委員会委員)

・会場構成

西澤徹夫(にしづわ・てつお)、浅子佳英(あさこ・よしひで)、森 純平(もり・じゅんぺい)
(八戸市美術館設計者)



参加アーティスト・コレクション(プロフィール)



浅田政志 〈浅田家〉《消防士》2006 [参考図版]

浅田政志 ASADA Masashi

1979年三重県生まれ、在住。専門学校の課題をきっかけに、「家族」がテーマの写真を撮り続ける。2009年、写真集『浅田家』(赤々舎)で第34回木村伊兵衛写真賞を受賞。著書は他に『アルバムのチカラ』(赤々舎)、『浅田撮影局 まんねん』(青幻舎)、『浅田撮影局 せんねん』(赤々舎)などがある。2020年には著書を原案とした映画『浅田家!』が公開された。過去に八戸ポータルミュージアム はっちのオープニング企画「八戸レビュー」へ参加している。

本展覧会では、八戸三社大祭を支える人々にスポットを当て、祭りの中で循環する人々の支え合いを写真に収める。



江頭誠 〈神宮寺宮型八棟造〉2015 [参考図版]

江頭誠 EGASHIRA Makoto

1986年三重県生まれ。戦後の日本で独自に普及してきた花柄の毛布を主な作品素材として、立体作品やインスタレーションを制作する。2015年に発泡スチロール製の靈柩車を毛布で装飾した『神宮寺宮型八棟造』で「第18回岡本太郎現代芸術賞」特別賞を、その翌年、毛布で洋式トイレをつくった『お花畠』で「SICF17」グランプリを受賞。主な展覧会に「六本木アートナイト2017」(六本木ヒルズ、東京)、「BIWAKO ビエンナーレ 2020」(近江八幡市街、滋賀)など。展示以外にアーティストYUKIの「My lovely ghost」のMVにアートワークで参加。

本展覧会では、山車をモチーフに毛布と絡め、巨大なインスタレーションを展開する。



大澤未来 〈where but into the sea〉2021 [参考図版]

大澤未来 OSAWA Mirai

1981年生まれ、八丈島在住。映像作家、映画監督。南部藩の時代から340年、東日本大震災の被災地域を巡回してきた神楽集団を通して自然と人間の関係性を描く長編映画「廻り神楽」を共同監督。第73回毎日映画コンクールドキュメンタリーミュージカル賞、キネマ旬報文化映画2017 ベストテンを受賞。人類学をベースに「生き物、自然、宗教と人間の関係性」に注目し、世界観を拡張する作品を制作。八戸市では「はっち流騎馬打毬」において、八戸三社大祭の騎馬打毬に登場する馬と人間の間をつなぐものに注目したマルチ映像作品「馬と人間」を発表。

本展覧会では、祭りと疫病の関係性に注目した映像インスタレーション作品を発表する。



大西幹夫 《八戸三社大祭絵巻》2021

大西幹夫 ONISHI Mikio

1943年青森県七戸町生まれ、八戸市在住。1979年より日本切り絵協会会員。1992年に第3回八戸市美術報奨受賞。2009年度八戸市文化賞受賞。1977年より独学により切り絵創作を始め、八戸市を中心に個展を多数開催。厳しい環境の中で働く人々のたくましさをテーマにした「浜の女達シリーズ」や、八戸の工場を対岸から描く「対岸の風景」、カレンダーの発行など、地域にこだわり、生活に根ざした切り絵を制作。

本展覧会では、八戸三社大祭300年の変遷の物語を切り絵で創作。地元表現者によるナレーションと音楽を合わせた映像スライドと合わせて展示する。

KOSUGE1-16 《モチΩスクランブル》2018、
© 都築憲司 [参考図版]

KOSUGE1-16 KOSUGE1-16

2001年より活動する土谷享、車田智志の2人による美術家ユニット。高知県在住。現在はこれまでの活動コンセプトを引き継ぎ、土谷が代表として活動している。「第11回岡本太郎現代芸術賞展」岡本太郎賞。2018年「KOSUGE1-16 MΩ CHI SC RAMBLE」(高知県立美術館)、2019年「瀬戸内国際芸術祭」、2015-2020年「DASHIJIN」(八戸ポータルミュージアムはっち)など。作品を通して鑑賞者を参加者として変質させ、参加者同士、あるいは作品と参加者の間に「もちつもたれつ」という関係性を構築するような作品やプロジェクトを各地で実施。

本展覧会では、観光資源化による祭りの変容や、オリンピックに向けて期待されていた「インバウンド」をテーマにした作品を制作する。

田附勝 〈DECOTORA〉《漁火慕情》八戸市館
鼻漁港 2020年11月 2020

田附勝 TATSUKI Masaru

1974年富山県生まれ。電飾を施したトラックとそのドライバーたちを9年に渡り撮影した写真集『DECOTORA』2007年を発表。東北の地を足繁く訪ね、自然への敬畏とともにある営みを撮り続けた作品集『東北』を2011年に発表し、第37回木村伊兵衛写真賞を受賞。震災後の鹿獵師を捉えた『その血はまだ赤いのか?』そして『「おわり。」』、さらには暗闇に佇む鹿を写した『KURAGARI』を刊行。2016年には八戸で漁師を追った『魚人』、近年は発掘当時の新聞紙に包まれ博物館などに収められた縄文土器片を撮影し、折り重なる時間と空間を写し出した『KAKER』を2020年に発表した。

本展覧会では、デコトラ発祥の地とも言われる八戸および近隣のトラックとドライバーを撮影した新作を展示する。



[参考イメージ]

田村友一郎 TAMURA Yuichiro

1977年富山県生まれ、京都府在住。「ヨコハマトリエンナーレ2020」(横浜美術館、2020)、「アジア・アート・ビエンナーレ」(国立台湾美術館、2019)、「話しているのは誰? 現代美術に潜む文学」(国立新美術館、2019)などに参加。日産アートアワード2017ファイナリスト。既存のイメージやオブジェクトを起点にした作品を手掛ける。土地固有の歴史的主題から身近な大衆的主題まで対象は幅広く、現実と虚構を交差させつつ多層的な物語を構築する。

本展覧会では、ギフトと関わりが深いデパートを起点に、八戸市出身の三浦哲郎による小説「おりえんたる・ぱらだいす」にも触れながら、八戸市中心街のデパートの変遷や贈答の手つきにまつわる新作を展示する。



大正時代の荒町消防屯所 [参考イメージ]

西澤徹夫・浅子佳英・森純平 NISHIZAWA Tezzo・ASACO Yoshihide・ MORI Junpei

西澤徹夫：1974年岐阜県生まれ、東京都在住。西澤徹夫建築設計事務所代表。／浅子佳英：1972年兵庫県生まれ、東京都在住。PRINT AND BUILD(旧タカバシスタジオ)代表。／森純平：1985年マレーシア生まれ、東京都在住。PARADISE AIRディレクター、たいけん美じゅつ場VIVAディレクター。

八戸市美術館設計チームが、本展覧会に作品展示で参加。八戸三社大祭に関連する場所である消防団屯所、新むつ旅館や、美術館の建築設計をスタディする中で触れてきた八戸性や地域資源を、その場所にある写真や作品、美術館の収蔵作品なども用いながら、その相関関係を視覚化することを試みる。

歌川国芳《坂田怪童丸》天保7年(1836)頃、
八戸クリニック街かどミュージアム蔵

八戸クリニック街かどミュージアム浮世絵コレクション Ukiyo-e Collection of Hachinohe Clinic Machikado Museum

2012年4月八戸市柏崎に開館。八戸ゆかりの鳥瞰図絵師・吉田初三郎の作品を中心とする近代鳥瞰図約3,500点、19世紀の浮世絵から大正・昭和の新版画へ続く日本の伝統木版画約3,000点、映画ポスター約5,000点を所蔵し、これまで30回以上の企画展を実施。また、他館の展覧会や書籍の出版などにも多数協力する他、八戸の歴史文化紹介サイト「はちのヘヒストリア」の制作も行っている。本展覧会では美術館の共創パートナーとして参加。江戸の浮世絵文化と八戸三社大祭の山車文化の共通性に着目し、歌川国芳の武者絵や歌川国貞の源氏絵などを展出する。自館においても関連企画展を実施予定。



樹本佳子 《平等院鳳凰堂／皿》 2015.
©KENSE

樹本佳子 MASUMOTO Keiko

1982年兵庫県生まれ、滋賀県在住。2007年京都市立芸術大学修士課程陶磁器専攻修了、2013年英V&A博物館レジデンスプログラムアーティスト。近年の主な展覧会に2019年あいちトリエンナーレ、2021年ワコールスタディホールにて個展(京都)など。「器であって器でない」をテーマに、装飾と器の関係性を壊す、新しい形の陶芸作品を制作している。

本展覧会では、八戸三社大祭で用いられるモチーフや、八戸の観光物産などを取り上げ、伝統的な陶芸技法を用いながらも、クスッと笑えるようなユーモラスな作品を制作する。



向井山朋子 《A Live vol.2 : Canto Ostinato》
2020. ©Tomoko Mukaiyama+Reinier van
Brummelen [参考図版]

向井山朋子 MUKAIYAMA Tomoko

和歌山県生まれ、オランダ在住のピアニスト／美術家／ディレクター。1991年国際ガウデアムス演奏家コンクールに日本人ピアニストとして初めて優勝、村松賞受賞。女性性を核に身体性、セクシャリティ、境界、記憶、儀式、時空など異なるテーマを横断し、従来の形式にとらわれない舞台芸術やインсталレーション、映像作品を劇場、ギャラリー、美術館、シネマ、野外、オンラインで展開している。

本展覧会では、八戸圏域の寒冷な風土の中で受け継がれてきた手仕事や工芸にもインスピレーションを得て、市民と一緒に贈り物交換のパフォーマンスを新たに制作する。

ディレクター(プロフィール)



吉川由美 YOSHIKAWA Yumi

1958年宮城県生まれ、在住。

八戸市新美術館運営検討委員会委員、八戸市新美術館建設工事設計者選定プロポーザル審査委員会委員。2010年より八戸ポータルミュージアム「はっち」でアートプロジェクトのディレクションを担当。東北各地でコミュニティと文化芸術、観光、教育とをつなげ、アートの力で地域の力を引き出す活動をしている。八戸市においては、はっち開館時の「八戸レビュー」など、地域資源に根ざしたさまざまなプロジェクトをディレクション、近年は八戸三社大祭をテーマにした「DASHIJIN」プロジェクトを実施(2015-2020)。その他、宮城県南三陸町での「きりこプロジェクト」、仙台市での「はっぴい・はっぱ・プロジェクト」など。



広報用画像(作品参考写真)



a



b



c



d



e



f



g



h



i



j



k

a 浅田政志 〈浅田家〉《消防士》2006

b 江頭誠 《神宮寺宮型八棟造》2015

c KOSUGE 1-16 《モチΩスクランブル》2018、© 都築憲司

d 田附勝 〈DECOTORA〉《漁火暮情》八戸市館鼻漁港 2020年11月 2020

e 田村友一郎 〔参考イメージ〕

f 桧本佳子 《平等院鳳凰堂／皿》2015、©KENSE

g 大澤未来 《where but into the sea》2021 〔参考図版〕

h 向井山朋子 《A Live vol.2 : Canto Ostinato》2020、©Tomoko Mukaiyama+Reinier van Brummelen

i 大西幹夫 《八戸三社大祭絵巻》2021

j 歌川国芳 《坂田怪童丸》天保7年(1836)頃、八戸クリニック街かどミュージアム蔵

k 西澤徹夫・浅子佳英・森純平 大正時代の荒町消防屯所 〔参考イメージ〕



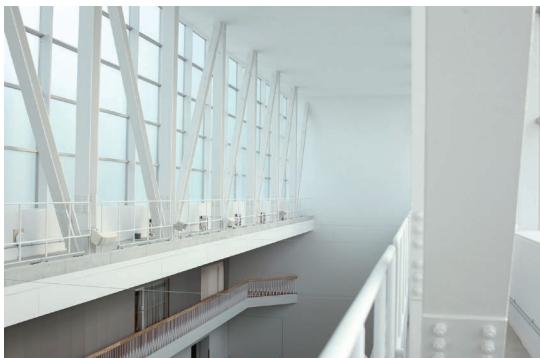
広報用画像(美術館の写真)



I



m



n



o

- I 阿野太一 または Daici Ano
 m 田村友一郎 または Yuichiro Tamura
 n 田村友一郎 または Yuichiro Tamura
 o 田村友一郎 または Yuichiro Tamura

広報用画像をご希望の方は、web ページ「報道関係の皆様へ」に掲載の広報用画像借用申込書をご記入いただきか、
 【1.会社名／組織名、2.媒体名・媒体の種類(雑誌、テレビ、webなど)、3.ご担当者名、4.ご連絡先、5.掲載／放送予定日、6.画像到着希望日、7.ご希望の写真記号】をメール等に明示の上、下記、お問い合わせ先までご連絡ください。

[画像の貸出条件]

- ・画像は本企画・美術館の紹介の目的のみにお使いいただけます。・画像データは第三者へ譲渡せず、使用後すみやかに消去してください。
- ・画像のトリミング、編集はできません。・作品画像の上に図や文字を重ねることはできません。
- ・画像を掲載、放送する際には、指定のクレジット表記を必ずいれてください。
- ・画像を掲載、放送する前に、ゲラ等掲載案をお送りください。担当者が確認します。
- ・新聞紙、雑誌、書籍等の印刷物に画像を使用する際は、八戸市美術館に1部ご寄贈ください。

お問い合わせ先

八戸市美術館 031-0031 青森県八戸市大字番町 10-4 TEL | 0178-45-8338(代表番号) FAX | 0178-24-4531
 E-mail | art@city.hachinohe.aomori.jp 八戸市美術館公式 HP | <https://hachinohe-art-museum.jp>
 担当者(広報) | 大澤、平井